

埼玉県作業療法士会 広報誌

彩り

春号

2025^{年度}



- 『リハフェスタ』開催レポート
- ねえきいて！「働き始めて早1年」
- 作業療法学生企画『Quality of Campus Life』

No.19

ー作業療法に関わる全ての人たちの魅力を伝える情報誌ー

リハビリを
伝えたい

P

T

同

O

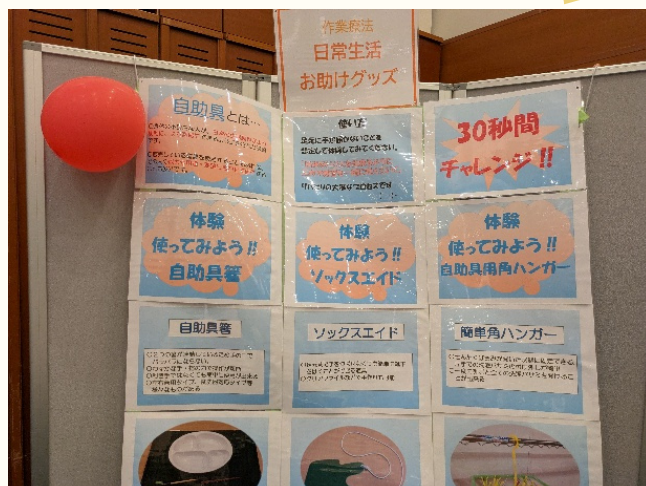
合

2025年
2月2日(日)
at キュポ・ラ川口

リハフェスタ開催

市民の方にリハビリテーションのことをもっとしてもらおうためのイベント「リハフェスタ」が今年も開催されました。リハフェスタとは彩の国リハビリテーションフェスタの略で、埼玉県作業療法士会と理学療法士会、言語聴覚士会の三士会が合同で開催しているイベントです。今回はコロナ禍を経て、5年ぶりに開催されました。

埼玉県作業療法士会では、【認知症】【生活介護】【子供の感覚統合遊び】と『ヤカーリング』など、作業療法について知ってもらえる場と子供たちが遊べる場も創りました！！



埼玉県作業療法士会 地域リハ推進部部長 館岡周平さんへのインタビュー

彩の国リハビリテーションフェスタは、埼玉県リハ職種三士会の共催事業であり、どなたでも参加可能なイベントです。

感染症拡大に伴い、2019年度を最後に開催を見送っていましたが、この度、久々に開催することができました。リハビリテーションがどのようなものなのか、また、どのような方々を対象としているのかを参加者の方々にお伝えする機会になっていたかと思います。今回の体験を通じて、県民の方々に実際のリハビリテーションの理解を深めていただき、必要性を感じていただければ嬉しく思います。

当日は、雪予報の中、小学生～高校生、高齢者の方が会場まで足を運んでくださいました。各ブースの様子をお伝えしたいと思います！



手作り菜



感覚統合遊び



日常生活
お助けグッズ

参加した学生スタッフのコメント



作業活動（手作り菜）の様子

大学や実習などでは
理学療法士や言語聴覚士の
仕事に触れる機会が少ないので
各ブースでの体験はとても新鮮
で他職種理解のきっかけに
なりました。

（目白大学4年桜井優成）



こころとくらしの地域支援推進委員会
による『ヤカーリング』の様子

リハビリテーションフェスタに
ご来場された幅広い年代の方々と
『ヤカーリング』を通して作業
の楽しさを体験することが出来ました。
PT.OT.ST同士の関わりを肌で
感じる事ができ、多職種で連携さ
れる姿に大きな刺激を受けました。

ありがとうございました！
（東京家政大学4年高橋遼叶）

リハビリテーションフェスタに
参加してみて、OT、PT、STと他職種
で交流でき、改めて他の職種のことを知
ることが出来ました。また、来場してく
ださった方と関わる事ができ、どう説
明すれば伝わるかなどを考える良い機会
になりました。

ありがとうございました。
（日本医療科学大学4年中村綾）



「働き始めて早 1 年」 ～作業療法士として働いて感じたこと～

- 報告者 -

東鷲宮病院
作業療法士 田村 海帆 さん

私は昨年の 4 月から身体障害領域のリハビリテーション病棟で働き始めました。作業療法士として働き始めて、初めて経験することも多く、知識・技術共に不十分と感じ、学び続ける毎日です。患者様の「できる!」を支援して、その人の生活がより良いものとなるような手助けをする仕事がしたいと働き始め、壁となったのは、移乗動作介助技術（ベッドと車椅子間などの乗り移りを助ける技術）と動作分析です。

ご自身の足の力だけで立ち上がり・踏ん張ることが難しい患者様の移乗動作介助では、介助者である私の腕だけで患者様を支えるのではなく、その方の脚を自分の脚で支えながら安全を確保し、その方自身の力が十分に発揮できるように、自分の方に体重を乗せて、力を調整して介助する必要があります。しかし、この体の使い方の習得は難しいものでした。それでも、上司や同僚に教わり、繰り返し練習し、なんとかできるようになってきました。

『動作分析』は作業療法士としてその人の作業や動作を見て、「うまくいっていないところ」を見つけ出し、そこを「できる!」に変えるために欠かせないものです。上司にもアドバイスを頂き、動画を見て動作を捉える練習をしたり、全体に着目出来るよう工夫したりと試行錯誤して、少しずつ向上していると実感しています。



まだまだ足りない部分は多いですが、それでも、患者様のできることが増えていく様子などを見ると、やりがいを感じます。患者様の大切な作業を支援するため、今後も成長していきたいです。

わたしが田村 OT です!

こちらは愛犬のさくらです♪

- ▶ 趣味：アニメ鑑賞、読書
- ▶ 休日の過ごし方：食料の買い物
- ▶ 好きな野菜：白菜
- ▶ 最近の悩み：野菜の高騰
- ▶ 最後にひとこと：

昨日の自分より少しでも成長したいです。





Quality of Campus Life



埼玉県作業療法士会では、県内の養成校の学生さんが『広報部学生サポーター』として広報部で活動し作業療法の魅力を伝えています。

そんな学生サポーターさんが今回は県内の臨床現場で働く作業療法士にインタビューしてくれました！



【今回の質問内容】

働いてみて大変だったことはなんですか？



訪問リハビリ担当

近森

『自由には責任が伴う』ということです。学生時代は何も言わなくても教員の方々の温かい支援がありますが、働く現場では各々の業務があるため、自らが行動し、周りと協力して仕事をしていく必要があります。学生に比べ自由度は高まりますが、行動にはスタッフとしての責任も伴うため『分からない』『教えて』『ありがとう』を自ら発信して、チーム一丸となり、目の前の方の利益を考える必要があります。



認知症治療病棟担当

石井

どんなに経験が浅くても自信がなくても、他職種の職員や患者様、ご家族からは『OTの自分』を求められることです。自分の知識や経験が乏しいからといって簡単に「分かりません」は言えないし、学生の頃のようにいつでも誰かが答えを導いてくれる訳でもない。「大変」という言い方は適切でないかもしれませんが、自身のやる事すべてにOTとしての責任が伴うことは精神的にヘビーであり、身が引き締まる瞬間でもあります。



回復期リハビリ病棟担当

永山

患者さんの生活背景を考えながらリハビリの介入をすることです。関わる患者さんの病状、性格、生活状況はひとりひとり異なります。その患者さんに見合った評価をし、目標を立て、リハビリプログラムを立案・実施していくことが臨床に出た今でも大変だな、と感じるとともに、患者さんの課題がクリアしたり、笑顔で退院するときにやりがいを感じます。



一般病棟担当

小島

1番大変だったのは、学生気分が抜けなかったことでしたね。同期入職がいたので、そこで仲良くしているとなかなか仕事の責任に気づきにくく、よく先輩から指導をされていました。私の場合の責任は、担当した方の書類の作成、目的と目標を立案して退院後を考えてプログラムをしっかりと考え続けることでしたね。甘えが出ちゃってました笑



埼玉県作業療法士会広報部では、県内の作業療法の養成校に通う学生さんの中から学生さんのリアルを伝えてくれる『学生サポーター』を随時募集しています！

興味のある方は各養成校の先生に相談してみてくださいね！

Follow me!!



公式 SNS やっています

研修会情報やブロック活動など最新情報をいち早く発信します！



@ot_saitama



@sai_otCE



埼玉県作業療法士会



埼玉県作業療法士会 ホームページ